

幼児に話しかけると、つい幼児語を使ってしまうことが多いものです。どうしても幼児語というのはかわいらしく聞こえるので、つい大人のほうがそれを使って話しかけてしまいがちです。しかし、言葉は最初が肝心です。幼児語を使うことは避けてください。

幼児は「さしすせそ」と「らりるれろ」が発音しにくく、「さ」は「だ」に、「ら」は「だ」になりがちです。これはまだ正しい発音ができないのですから直そうとしてはいけません。

しかし、だからといって、親までが幼児語でしゃべっていれば、それが正しいと思って記憶されてしまう危険があります。結局、また直さなければならぬのですから、最初からきちんと話したほうがいいでしょう。

幼児は最初は「ダジオ(ラジオ)」でもいいのです。でも、親は「ラジオ」と言いましょう。子どもは親の真似をします。真似ながら学習していきますから、そのうちにその発音の違いに気づき自然と正しく言えるようになります。いいお手本を見せていれば、子どもはそれを取り入れようとするのです。

初めはきちんとしゃべれなくても、親の言葉づかいをしっかり聞いていますから、すぐちゃんと発音できるようになります。幼児のこうした能

力には目を見張るものがありますから、親もそういうことを踏まえて話してやるのが大切です。

ポイント:大切なことは、あくまでも赤ちゃんの頭を使わせるということです。頭を使うということが頭をよくすることなのですから、どの字が読めてどの字が読めなかったということは問題にする必要はないわけです。